

MEDICAL NEWS

<https://hospital.kikkoman.co.jp>



新型コロナウイルスの新規感染者数は、5月連休明けの5類感染症移行後もほぼ右肩上がりが増えて続けてきました。ここに来てやや頭打ちには見えますが、まだまだ油断はできない状況です。当院の発熱外来受診者数・コロナ陽性者数を見ても落ち着く気配はなく、連日必死に対応を続けている担当スタッフの姿が印象的です。コロナでは変異株の推移も医療情勢に大きく影響しますが、最近国内で主流になりつつあるのはXBB系統（オミクロン株）のEG.5.1です。免疫を逃避する可能性が高くなることが示唆されているため注視する必要がありますが、現時点で重症度や感染性が上昇したという知見はありません。また、9月以降の接種が計画されているXBB.1.5系統対応新型コロナウイルスワクチンの有効性が低下するという報告もありません。

一方で、インフルエンザも第33週（8月14日）頃から感染者数が増え続けていて、このまま冬の流行期に移行していく勢いです。グローバル化の進行や、3年間の行動制限で免疫力が低下していることがその理由として考えられます。インフルエンザと新型コロナウイルスの重複感染には注意が必要で、症状が重くなる傾向や重症化率が高まる可能性が危惧されています。

有効な対策として、食事・睡眠・運動を含め規則正しい生活を送ることは、自身の免疫力を高めて身を守ることに繋がります。さらに、手洗い・マスク・換気の徹底やうがいなどは、両ウイルスの感染予防に極めて有効です。それでも発熱等症状が出現してしまった場合には、速やかに発熱外来を受診して診断を受けて頂くことが大切です。コロナもインフルエンザも、症例に応じて抗ウイルス薬の投与が検討されます。抗ウイルス薬には速やかにウイルス量を減少させる作用があり、症状軽減・罹病期間短縮・2次感染の予防・重症化の予防など様々な効果を期待できます。新型コロナウイルスの抗ウイルス薬は高価



新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備えて

内科診療部長 秋本 政秀

ですが、10月以降もしばらくの間は国の補助を受けられることが決まっています。

新型コロナウイルスに対する2023年秋開始接種（XBB対応ワクチン）とインフルエンザワクチン接種についても、定期的に重なりはしますが、両者とも若年層を含めた幅広い年代の方にお勧めしたいところですが、「コロナ前の日常に戻していく」ということが前提になるとは思いますが、この3年半で学んだ知識や経験を一人一人が適切に振り返り、感染の広がりを最低限に食い止めようという意識を持つことも、今はまだ忘れずに行動して頂けたら、と思います。

検査科とは？

わたしたち、臨床検査技師は病気の診断や治療を目的として、医師の指示の下で各種の臨床検査を行う職業です。医師が診察する際に患者さんの病気やけがの状態を正しく評価するために、不可欠なものとなっています。

『検体検査』:患者さんから採取した血液や尿、喀痰、生検材料などを検査します

- ◆ 血液検査 貧血などの病態把握や白血病などの血液疾患の診断
- ◆ 生化学検査 肝機能、腎機能、脂質検査、糖尿病検査など
- ◆ 血清検査 肝炎ウイルス検査や血液型、輸血関連検査
- ◆ 一般検査 尿・便・髄液・胸水・腹水などについての検査
- ◆ 免疫血清検査 微量に存在するホルモン、腫瘍マーカーまた感染症の診断に必要な検査



▲コロナウイルス抗原定量検査装置



▲採血業務



『生理検査』:検査機器を使って直接患者さんと接して行う検査です

- ◆ 心電図 不整脈・虚血性心疾患・心肥大などの診断
- ◆ 呼吸機能検査 呼吸器疾患の発見や、手術前にも検査を行うことがある
- ◆ 神経伝導検査 手根管症候群や糖尿病性神経障害などの鑑別や程度を調べる
- ◆ 聴覚検査 難聴・メニエル病・補聴器使用目的などに有用
聴性脳幹反応(ABR):高精度な新生児の聴力検査で聴覚障害の早期発見
- ◆ 超音波検査 画像診断となり、腹部・心臓・甲状腺・頸動脈・下肢静脈等を行っている
- ◆ 内視鏡検査補助 胃・大腸カメラなど
昨年度より業務拡充し、スタッフ増員しました

内視鏡補助▼



▲神経伝導検査

現在、当院の検査科は生理機能検査担当技師6人、内視鏡担当技師3人（採血業務含む）、検体検査担当技師7人です。精度の高い検査結果を迅速に提供できるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願いたします。





リハビリテーションセンターのご紹介

リハビリテーションセンターでは、理学療法士28人、作業療法士7人で地域の皆さんの健康をサポートしています。リハビリの対象となる疾患は、運動器・呼吸器・循環器・脳血管疾患・廃用症候群・がん患者リハビリテーションと幅広く、入院後早期から介入し、住環境整備等の在宅復帰支援、外来通院に至るまでシームレスにリハビリテーションを提供しています。

3F リハビリテーション室

入院患者さんにご利用いただけるリハビリテーション室が病棟に併設されています。プラットホームや平行棒、バランス練習などが行えるスペースや器具があり、自宅退院に向けて日常生活動作を練習したり、その方が必要とする動作の獲得を目指します。



作業療法

作業療法では、入院生活後の自宅復帰や手の外科疾患受傷後に必要な日常生活動作の練習、仕事・趣味動作など、その方の生活に即した練習を実施しています。患者様が「その人らしい生活」を送れることを目標に支援しています。



運動療法機器



当院では運動療法機器を充実させており、効率的に運動が行える環境が整っております。機能訓練室には運動効果を高めるためにパワーラックやパワープレート、エルゴメーター、油圧マシンなど多くの運動療法機器を導入しています。スポーツを行う方から高齢者までレベルに合わせて理学療法士が運動処方をし、積極的に活用しています。

3F中庭 スポーツエリア



3Fの中庭にはリハビリ専用の屋外多目的エリアがあります。投球動作の指導や、走行動作の確認、スポーツリハビリテーションなど実際のスポーツ動作を確認しながらのリハビリテーションを提供します。

インソール

腰痛や膝の痛み、外反母趾などの様々なお悩みに対してインソールを作成しています。足型を取り作成するインソールとは異なり、その人の「歩き」や「動作」に合わせ丁寧に評価をし、オーダーメイドのインソールを作成します。一人ひとりの歩行をしっかり観察して痛みが取れたり、動きやすい歩容に変化するようにしていきます。



ウィメンズヘルス

妊娠期や産後の腰痛やマイナートラブルに対応しています。エコーを用いて、力の入れ方がわかりにくい腹部の筋肉の収縮を視覚的に確認しながらトレーニングしていきます。

